令和８年度 東京都立翔陽高等学校 学校経営計画

１　目指す学校

（１）スクール・ミッション

「自学・自律・自信」をモットーに、探究的な学び・キャリア教育・国際理解教育・豊かな人間性の育成に重点を置いた教育活動を展開し、探究学習の実践を通して、国際社会で活躍できる、創造性や対人能力を身に付けた生徒を育成します。

（２）教育目標

自らの夢の実現に向け、高い志を抱いて主体的に学び、社会に貢献し国際社会で活躍できる人材を育成する進学校を目指す。本校においては、以下の３つの資質・能力の育成を行う。

ア　基礎的な知識・技能を育成し、探究的・横断的な学習から実践力を育成する。

イ　自主的な学習態度を養い、思考力・判断力・表現力や創造力を育成する。

ウ　自己肯定感を養い、高い規範意識と思いやりの心をもち、人間性豊かな生徒を育成する。

（３）３つのスクール・ポリシー

ア　グラデュエーション・ポリシー

（ア）向上心をもち、自ら鍛え、自分の能力・個性を伸ばす生徒

（イ）目標を高く掲げ、自ら学び、自ら夢を拓く生徒

（ウ）高い規範意識をもち、自ら律する生徒

（エ）人間性に溢れ、思いやりのある豊かな人間関係を築くことのできる生徒

（オ）自己表現力と国際感覚を身に付け、国際社会に貢献できる生徒

イ　カリキュラム・ポリシー

（ア）探究的な学習活動の展開を行うための教育課程を編成し、主体的・対話的な深い学びを実践する。

（イ）単位制を活かした科目選択を通して、将来の自分自身の可能性を高め、自分ができること・やりたいことを見極め、協働して社会に参画できる力を育む。

（ウ）グローバル社会の中での生きる力を育むために、英語４技能の育成及び海外交流会や海外修学旅行等の機会を活用し国際交流等を推進する。

（エ）特別活動等を通して、自己肯定感を養い、高い規範意識と思いやりの心を育む。

ウ　アドミッション・ポリシー

（ア）大学進学に向けて、高い志をもって学習に取り組む力をもつ生徒

（イ）学校行事、生徒会活動、部活動等に積極的に取り組み、自ら考え、表現できるリーダー

（ウ）ルールやマナーを守り、自他共に高め合える豊かな人間性をもつ生徒

（４）校　訓

「時を守り」	５分前準備・集合	遅刻をしない
「場を清め」	整理整頓・清掃	場を汚さない
「礼を尽くす」	挨拶・身だしなみ	感謝の心を伝える

２　中期的目標と方策 グランドデザイン11の力	３　今年度の取組目標と具体的方策
【目標１】 規範意識と人権尊重の精神の育成 自己管理　主体性 他者への寛容　道徳 洞察力 コミュニケーション力 【方策１】 学校の規則や時間を守	【目標】 社会のルールやマナー、モラルの意義を理解し、自らを律し、適切な行動ができる生徒を育成する。 【方策】 ①全教職員が率先して挨拶と身だしなみを励行し、生徒へ積極的に声掛け、指導を行う。 ②生活指導部を中心に生活指導方針の共通理解を図り全教職員が一丸となって全校統一した指導を行う。 ③時間やルールを守る必要性を生徒自ら考え、守ることができなかった場合も自ら原因を分析し改善策をたて実行できるよう、指導助言する。

らせる指導を通して、社会人に必要な生活習慣と規範意識を身に付けさせる。 【方策２】 他者との関わりの中で発生する問題を通して、人は誰でも当然に尊重され大切にされるという意味を考えさせ、解決に繋げる支援	④清浄な学習環境を整えるため、整理整頓、通常清掃のほか、生徒の「きれいにしたい」を生徒自ら実現するよう、仕組みづくりや用具購入で支援する。 ⑤学校ＳＮＳルールを生徒会を中心に生徒が策定することで「自らルールを定め、守る」経験をさせる。 ⑥生徒会・委員会が提案する、学校をよりよくするための提案については適切な指導支援をしながら積極的に登用する。 ⑦情報管理力を身に付けさせるよう、デジタル掲示板や生徒個人端末を活用し情報発信や課題回収等を行う。 ⑧コンディションレポート等を活用し、生徒自ら心身の健康管理が行えるようにする。 ⑨学校の安全管理体制を徹底し、生徒の自己管理力を高めることで、問題行動発生を予防する。問題行動発生時は速やかに組織的に対応し再発防止を徹底する。 【目標】 キャリア教育を通して自己理解を深め、探究活動や特別活動を通して、他者と関係を築きながら協同できる力を身に付けさせる。 【方策】 ①総合的な探究の時間を中心に、キャリア教育を通して、自己の在り方、生き方を考えさせる。 ②他者を尊重し、お互いを認め合うための活動、取組を積極的に計画実現し、コミュニケーション力の育成、好ましい人間関係の構築を支援する。 ③生徒、保護者の悩みに対応するため、スクールカウンセラーの活用の他、自治体の相談窓口の情報提供、福祉や医療機関等の外部専門機関との連携を強化する。担任は保護者と日頃から信頼関係を築き、協力体制を図っておくことで、不登校や中途退学の未然防止に繋げる。 ④セーフティ教室や集会、講演会等を通して、命の大切さ、SOSの出し方、犯罪に巻き込まれない手段を学ばせる。 ⑤生徒をよく観察し、挨拶し、声を掛けることで、生徒の些細な変化を見逃さず、問題に気付き、寄り添い、解決に向けた支援を組織的かつ協力的に行う。 ⑥「自分も相手も大切にする」「いじめは絶対に許されない」というメッセージを、全教職員が絶えず発信する。
【目標２】 学力の向上 主体性　自己表現力 知識・技能 情報収集･活用力 【方策３】進学・就職後を見越した学力を身に付けさせる。	【目標】 希望進路を実現する学力を身に付けさせる。 【目標】 入学時よりも学力を上げる。 【方策】 ①生徒が能動的に授業に取り組むよう、授業における生徒の活動時間を６割以上とする。 ②アウトプットによる思考力、判断力、表現力、創造力を身に付けさせる授業を実践する。 ③学びの成長を促すため、従来より授業内容や課題の難易度を上げ、「適度な負荷」を与える。 ④指導教諭や指導主事による授業改善指導、進学重点校等への授業見学を通して、指導力を向上させる。 ⑤全教科で言語能力向上を図るため、他者に「説明する」「考えを自分の言葉で表現する」「プレゼンテーションする」活動を授業に取り入れる。 ⑥図書館を活用した学習、研究、グループ作業を実施することで、図書や新聞に親しみ、活用する手法を学ばせ、読書時間を増やすことで、大学入試や民間検定試験に有効な読解力・記述力向上につなげる。 ⑦放課後の補習や補講で、授業時間内だけでは理解できない生徒の学びを補い、また、

	より高度な学びを求める生徒のニーズに応える。 ⑧生徒の学力向上と受験対策を目的とした長期休業期間中の講座開講を強化する（国数英理社情）。また、生徒の興味関心や生涯学習、心身の健康に繋がる講座の開講で、学ぶ意欲を喚起し、社会に繋がる学びを実現する。 ⑨自己学習習慣定着のため、宿題や課題提出、小テスト実施、予習復習を前提とした授業を展開する。 ⑩校内の自己学習の場として、自習室、図書室、学習スペースを生徒が積極的かつ有効活用できるよう、管理や指導体制も含めた環境整備を行う。 ⑪進学指導研究校の研修や研究会、民間の学習塾や進学研究所等における指導力向上講座や講義の参加を通して教員の授業力、進学指導力、進路指導力を向上させる。 ⑫生徒個人端末を活用し、学習支援、高度な学習機会の提供、課題配信と提出等、授業担当者の工夫で「授業以外の学び」「個別最適な学び」を充実させる。
【目標３】 高い進路希望の実現 主体性　自己表現力 課題発見・解決力 実行力　情報収集･活用力 【方策４】キャリア教育の充実を図り、進路部を中心に進路指導体制を整備し、学力分析等のデータに基づく組織的な進路指導を推進する。	【目標】 進路部が主導し、年次と連携して、生徒の進路希望を実現する。 【方策】 ①進路部は３年間を見通した指導計画と方針を策定する。年次は計画と方針に従い、生徒の状況や特徴を進路部と情報共有しながら、協力して指導にあたる。 ②「進学指導研究校」として、進路部は教科主任会や校内研修を活用して模試や定期考査結果の分析会を開催する。各教科はデータを基にした学力分析を行い、全教職員で共有することで、組織的な進路指導に活用する。 ③国公立、難関私大受験を目指す生徒を中心に、ケース会議を実施し、組織的な指導、支援を強化する。 ④総合的な探究の時間において進路に関する自己の課題を設定させ、様々な経験で幅広い視野を持たせ、教科横断的な学びを通して課題解決力を身に付けさせる。 ⑤生徒の高い志と目標を推奨し、組織的・個別的・具体的な進路指導を行う。希望進路の実現に向けて最後まで粘り強く、生徒と保護者に伴走する。 ⑥研修を通して、全教員の進路指導力を向上させる。 ⑦大学受験に必要な小論文・面接指導は全教員が担当する。経験が浅い教員については、進路部やベテラン教員がOJTで指導したり、研修会で指導力を育成する。 ⑧進路行事、出張講義、キャンパス訪問等は、生徒の進路意識を高め、自己の進路を深く考える機会へと繋げるため、計画的な事前事後指導と共に実施し、生徒の変容を把握することで、有効的な進路指導に繋げる。 ⑨全ての教育活動を通してキャリア教育の充実を図り、実社会での自立に必要な能力と態度の育成を目指す。 ⑩進学指導を見据えた学習支援のため、大学生チューターによる学習支援を実施する。 ⑪保護者による「職業講話」「職業紹介」を実施する。
【目標４】 国際社会で活躍できる人材の育成 主体性 自己表現力　洞察力 コミュニケーション力 課題発見・解決力 実行力 【方策５】英語民間試験や国際交流行事、国内外	【目標】 豊かな国際感覚と多様性を受け入れる生徒を育成する。 【方策】 ①英語教育推進校、海外学校間交流推進校事業を活用し、異国の伝統・文化に触れる機会を積極的に設け、異文化を調べ、知り、研究することで多様性への理解を深め、尊重する態度を育成させる。 ②イングリッシュキャンプ、留学生や姉妹校との交流、海外修学旅行（台湾）、海外研修旅行の他、東京都が実施するグローバル事業を活用した海外体験を積極的に推奨し、国際理解教育の充実を図る。 ③世界的な課題に対し、グローバルな視野で考察したり、英語で異国の高校生と意見を交わしながら協同して課題解決を模索する力を身に付けさせる。

の語学研修等を充実させる。	④日本の伝統・文化を理解し、英語で表現できる力を身に付けさせる。 ⑤英語４技能の伸長を図り、英語民間試験や国際交流行事、国内外の語学研修等を充実させる。 ⑥ＪＥＴやＡＬＴ、オンライン英会話を活用し「使える」「表現する」英語力を身に付けさせる。 ⑦英検Ｓ－ＣＢＴ等の外部検定試験において、卒業までにＣＥＦＲでＢ１以上の英語力を身に付けさせるよう、インプットに偏らない英語４技能向上を目指した指導を充実させる。 ⑧卒業までに全生徒英語検定準２級以上合格を目指す。
【目標５】 都民のニーズに応える魅力的な学校づくりを通した入学希望者数の増加 主体性　自己表現力 コミュニケーション力 実行力 【方策６】学校行事や部活動等を通して生徒の豊かな人間性と社会性を育成する。 【方策７】多摩地域、市内小中学校、近隣地域における連携事業を強化する。 【方策８】全教職員で学校のＰＲ活動を行う。	【目標】 特別活動の充実 【方策】 ①特別活動等の集団活動を通して、望ましい人間関係の構築を図る。充実感や達成感を体験させることで生徒の自尊感情を高めさせ、自信に繋げる。 ②TOKYO ACTIVE PLAN for students に基づき、特別活動や授業を通して体力向上と健康の保持増進を図る。 ③委員会を中心に生徒が主体的に取組みリーダーシップを発揮できるよう、計画的に指導、支援する。 ③部活動を通して健全な心と身体を育成するため、「部活動ガイドライン」に則り、活動日や活動時間、事故予防、熱中症対策を適正に実施しする。 ④学業と特別活動を両立させるため、「切り替えと集中」の方法を指導する。 ⑤学校行事の意義、適切な実施時期を検証し、必要な改善は次年度の年間計画に反映させる。 【目標】 学校評価を高める地域連携の強化 【方策】 ①近隣の小中学校や地域住民や施設との交流を積極的に行い、知名度と好感度を向上させる。 ②生徒と教職員による校舎内外の美化・清掃の実施を通して地域に貢献することで信頼を高める。 ③地域と連携した防災について、生徒会役員を中心に「生徒ができること」を計画し、対策を推進する。 ④中学生対象の部活動体験、小学生や地域住民を対象とした体験教室を開催し、生徒の異年齢集団とのコミュニケーション力を育成する。 【目標】 第一次学力選抜試験の応募倍率１．１倍を目指した広報戦略 【方策】 ①教育情報部を中心に、中学生、保護者、地域のニーズ分析を進め、全教職員で団結して積極的に広報活動を行う。特に夏季休業中の広報活動を強化する。 ②生徒広報委員を中心に、本校の生徒の良さをアピールする広報戦略を推進する。 ③中学校・学習塾訪問や生徒による母校訪問、本校での学校説明会・見学会に加え、東京都教育委員会や八王子市教育委員会と連携した説明会、塾主催説明会等に積極的に参加して本校の魅力と本校の生徒をアピールする。 ④中学校の先生や学習塾を対象とした学校見学・授業見学・説明会を実施する。 ⑤ホームページ充実のため各分掌・年次に担当者を置き、本校の教育活動を頻繁に迅速かつ正確に発信する。 ⑥学校の魅力を伝えるアイディアを生徒・教職員から募集し、費用対効果も図りながら採用し、生徒と教職員が「自分の学校の良さを自分の言葉で伝える」広報活動を実

	現する。
【目標６】 組織的かつ適正な学校経営の実現 【方策９】学校の規程を整え、周知し、会議や研修を通して共通理解を図り、適切な対応を実現する。 【方策１０】学校の情報を適切に公開したり、家庭への連絡を密にすることで信頼関係を築く。 【方策１１】経営企画室と教職員は、学校の状況や情報を共有し、協力して課題解決を行う。	【目標】 計画的・組織的な学校運営の推進 【方策】 ①学校経営計画を実現するため、教職員全員で、課題意識をもって取り組む。 ②服務事故の根絶に向けコンプライアンス遵守も含め、正規職員だけでなく会計年度任用職員に対しても服務の厳正を徹底し教職員研修とチェック体制を強化する。 ③学校危機管理マニュアル、学校危機管理計画を基に、災害発生時や避難所としての対応、事故・事件発生時の対応や連絡体制を明確にした危機管理体制を構築する。 ④学校、生徒の安心、安全を守るために、教職員による巡回や点検、施錠管理等を徹底すると共に、警察や外部機関と連携し、必要な手段を惜しみなく講ずる。 ⑤生じた課題については、分掌・年次・教科間の密接な情報交換と意見交換、協力により、組織的な解決を図る。 ⑥いじめ防止法と学校いじめ防止対策方針に従い、組織的な未然防止、早期発見、早期対応を行う。適切な対応実現のため、教員研修を、年に３回以上実施する。 ⑦地域の特別支援学校と連携し、特別な支援や配慮について教職員の知識や理解を深めさせ、支援が必要な生徒については、特別支援教育コーディネーターを中心に福祉施設や医療機関等と連携し、適切な対応を講じる。 ⑧若手教員を対象とした学習・生活・進路指導、学校運営等に関するＯＪＴを実施し、個々の教育力と組織力の向上を図る。 ⑨「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、部活動指導員等の活用による部活動指導の負担軽減、DX を活用した業務効率向上、会議時間の短縮を図ることで教員のライフ・ワーク・バランスを実現する。長期休業期間中は定時退庁と年休取得を推奨する。それにより、年次有給休暇年間１５日以上取得、残業時間月４５時間超過の教職員ゼロを目指す。 ⑩新学習指導要領の趣旨を踏まえ、習熟度別・少人数展開授業の見直し、教育課程の見直し、教科横断型指導や観点別評価等についての研究や改善を、教科主任会を中心に進める。 ⑪生徒の些細な異変や怪我、体調不良等の際には、担任は家庭へこまめに連絡し、コミュニケーションを密にすることで信頼関係を築く。 ⑫保護者や地域の協力を得られるよう、学校の取り組みやその様子を、学校だより等で周知する。 【目標】 積極的経営参画型の経営企画室を実現する。 【方策】 ①年度当初に経営参画ガイドラインを確認し、経営企画室と教員との連携を強化して課題の解決を図る。 ②自律経営予算の計画的・適正な編成を図り、教員との意識共有により費用対効果の観点から効率的な予算執行に努める。 ③校内の安全、清浄、衛生面の確保、熱中症対策を優先した予算執行とする。 ④教員と連携して施設、設備の定期的点検を実施し、生徒の安全に関わる修復、修繕や用品購入は、優先的かつ速やかに行う。 ⑤センター執行率が前年度以上になるよう、定期的にチェックする。 ⑥個人情報の管理や会計事故の防止等を講じ、定期的にチェックする。